



# まちづくり懇談会報告

長門市へお越しいただき、鮫と人とのかわりを文化の視点から全国へ情報発信させていただきました。私はこうした文化面からも長門市を全国へ情報発信し、これが観光に、そして地域の振興につながるということも考えていかなければならないとも思っております。

「市町村合併」の問題につきましては、現状をしっかりと捉え、進めてまいりたいと思っております。

長門地域は、早くから1市3町の枠組みが出来ており、古くから産業・経済、日常生活に至るまで非常につながりが強く、合併シミュレーション調査事業につきましても一緒になって取り組んだところです。

この合併には、平成17年3月という、合併特例法の期限があります。この法律に定められた合併特例債等の財政支援のことも含めて考えれば、できるだけ早い時期に法定合併協議会を立ち上げ、住民の皆さんと協議を進める体制をつくる必要があります。タイムスケジュール的には、ぎりぎりのところでもあります。

特に合併は、長門市だけでできる話ではありません。他の3町も、こうした日程的なものを

意識しながら、それぞれ住民の皆さんに説明をしていく作業を進められています。

私もこれから残り2年を精一杯やり抜いて参りたいと思っております。今後も、このような懇談会を定期的に開催し、皆さんのご意見をお聴きする機会を設け、市政に反映させていきたいと思っております。

## 主要要望・提言等



### 市町村合併問題①

**Q** 1市3町で検討されていますが、観光面や地域活性化等を考慮すると、萩市や美祢市などの枠組みも考えられるのではないですか。

**A** 交流人口や経済人口としては萩市や美祢市、豊浦郡なども考えられますが、合併の対象となると限定されてくると思います。合併で一緒に手を携えられる相手は大津郡3町であり、この枠を超えた場合には、現実論から離れてくると思います。



### 市町村合併問題②

**Q** 国の財政支援をあてにしているように感じるが、これから取り組んでいく産業振興などの具体的な案はないのですか。

**A** いま、なぜ合併かという理由の一つとして、平成17年3月までに合併すると、合併特例債などの財政支援が受けられます。しかし、この特例債等の財政支援をあてにするだけでは、将来のまちづくりが見

えてきませんので、どういう部分に特例債を使うのか、はっきりしていかなければならないと思っております。

そのためにも、できるだけ早い時期に法定合併協議会を立ち上げ、その場で新しいまちづくりの計画を協議していく必要があります。

例えば、1市3町に共通する農林業や水産業などの1次産業の経済基盤をしっかりとつくる必要があると考えており、この1次産業の強化に特例債を使っていくことも考えられます。

### 市町村合併問題③

**Q** 1市3町では、合併をうとしているのですか。

**A** 地方自治体の足腰を強くしようとする地方分権の流れの中で合併を捉えており、合併特例債を貰うためとか、国や県の押しつけでとか、地方交付税が減ってくるとか、それだけではありません。ここで仕切り直して、まちづくりを進めていくためにも、合併はちょうど良い機会といえます。